

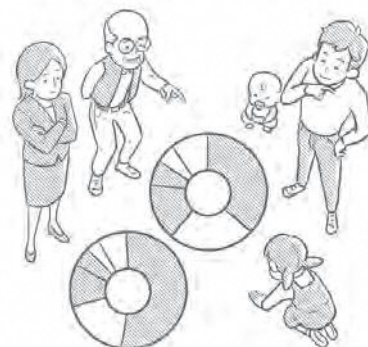
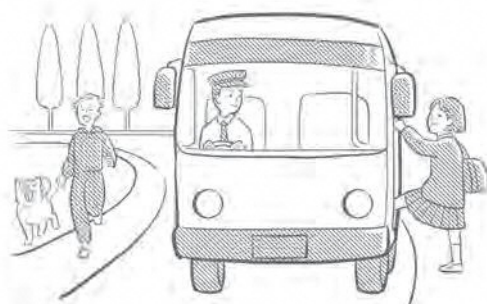
KIZUGAWA CITY



第2次木津川市総合計画

後期基本計画

概要版



第2次木津川市総合計画とは

総合計画とは、自治体が将来の方向性や目標を定め、どのようにまちづくりを進めていくのかという方針や施策を示したものです。

木津川市では、平成 31（2019）年に第 2 次木津川市総合計画を策定し、10 年間で目指す理想のまちとそれを実現するための取組みなどを示して、まちづくりを推進してきました。

策定から 5 年が経ち、木津川市でも大規模な住宅開発地への人口流入が一定収束する人口転換期*を迎え、新型コロナウイルス感染症による市民のライフスタイルの変化、脱炭素社会の実現、ICT*技術の活用など、市を取り巻く環境は変わってきています。

これらの変化や社会問題を踏まえ、後期基本計画を策定しました。

平成 31（2019）～令和 10（2028）年度

10年間で目指すまちの姿

まちの

子どもの笑顔が未来に続く

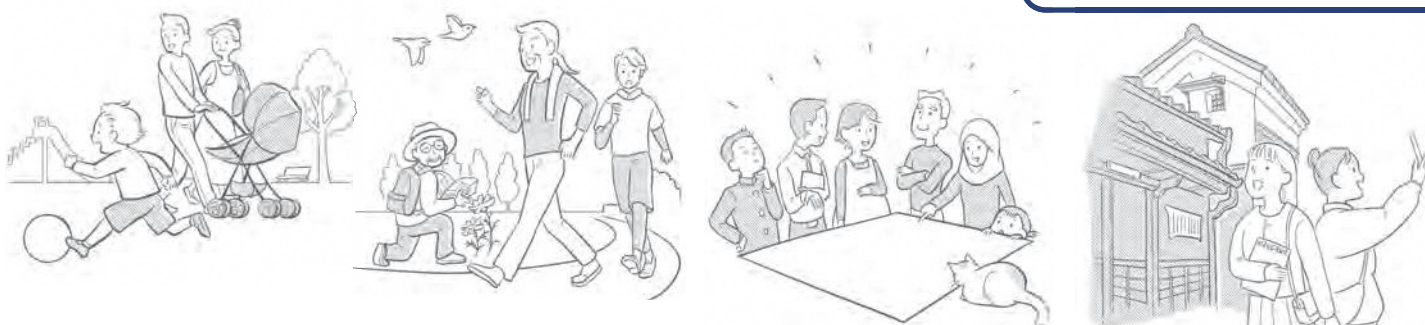
まちの将来

幸せを実感できる住みよさがある

- 住む、学ぶ、働く、遊ぶ、安心・安全の暮らしを感じられる。
- 人、組織、地域のつながりと相互扶助で地域課題の解決に取り組んでいる。

新しい価値や魅力が常

- 市民の感性、創造する力がある。
- 市内外の交流・ネットワークしている。
- 地域の自然・文化や立地環境研究成果などが地域個性



第2次木津川市総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つの枠組みで構成されています。

基本構想とは

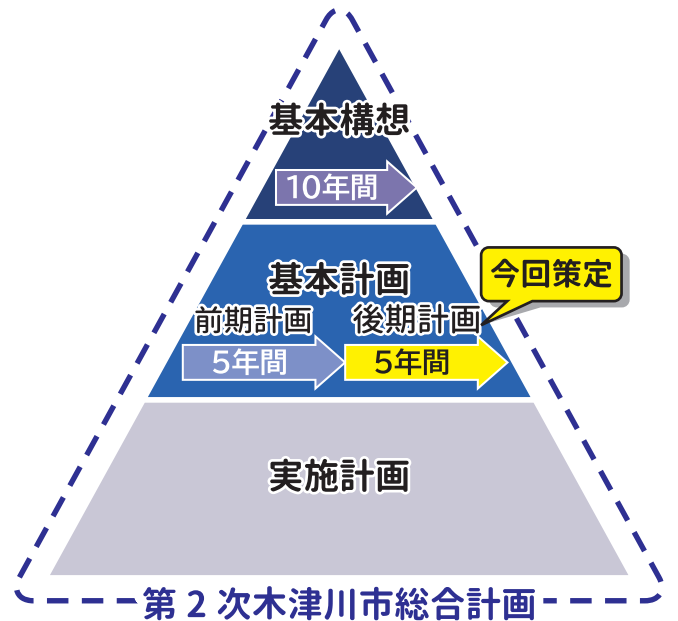
目指すまちの姿、その実現のための基本的な考え方を示したものです。

基本計画とは

目指すまちの姿を実現するための具体的な取組み(以下、施策)を示したものです。5年毎に見直します。今回は後半の5年間の計画に当たります。

実施計画とは

基本計画を受けて、施策を効果的・効率的に進めるための活動やサービスを示したものです。毎年更新します。



将来像

幸せ実感都市 木津川

像のイメージ

に生み出されている

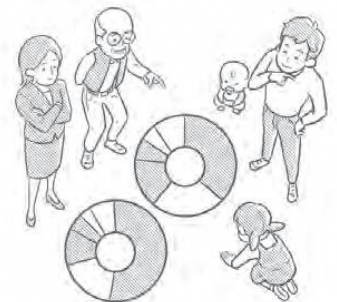
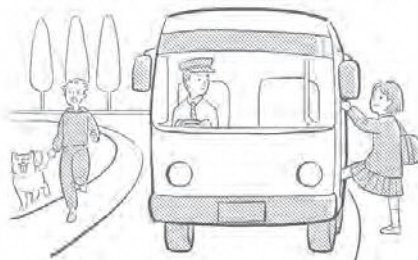
育ち、活かされるチャンスが

クによる地域づくりが進んで

境、関西文化学術研究都市の
や産業に活かされている。

人口が増加し、地域に元気がある

- こどもが元気に産み育てられ、世代間のバランスが整っている。
- 地域ごとのコミュニティ*づくりが効果的・効率的に行われている。



*人口転換期：人口が増加から減少に転換すること。

*ICT：コンピュータやインターネットなどの情報通信技術のこと。

*コミュニティ：地域社会あるいは共同体のことであり、住民間のつながりや相互の協力関係などを意味する。

木津川市の今

木津川市を取り巻く環境の変化への対応

暮らしやすい木津川市を目指すため、世界や日本のなかで起きている社会情勢の目まぐるしい変化に対応する必要があります。

持続に向けた 政策の転換	子育て、若者定着に 向けた 手厚いサポート	価値観やライフスタイル 変化に応じた、つながり、 コミュニティの構築
市民の生命・財産を 脅かす リスクへの対応	地域の魅力の再発見・ 再価値化・再構築による 誇りや交流活動の醸成	広域的立地環境を踏まえた 地域の仕事、暮らし、 文化づくり
地域特性・課題に応じた 都市の最適化、スリム化 で持続的なまちづくり	脱炭素社会の実現に 向けた環境に配慮した 循環型のまちづくり	I C T技術を活用した 効率的で人にやさしい まちづくり

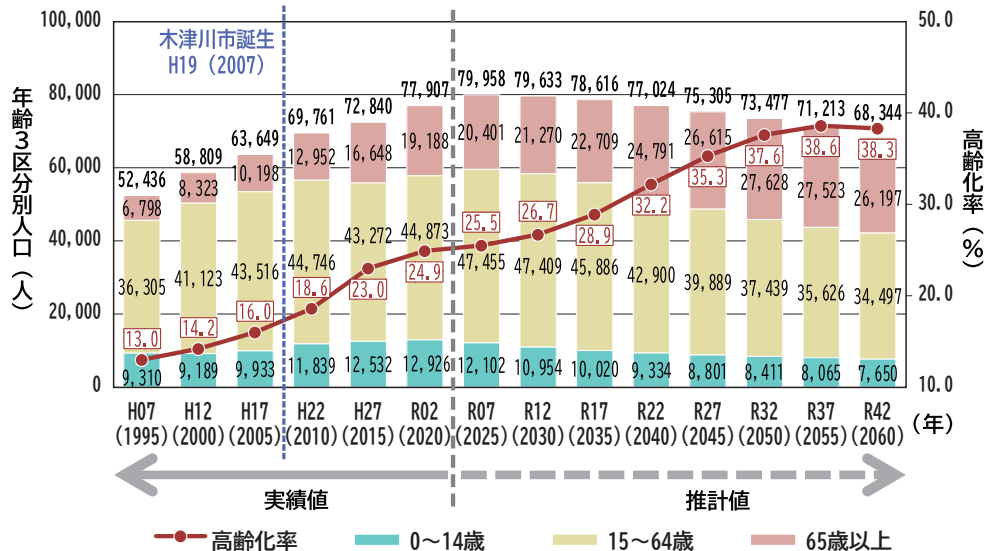
将来目標人口「80,000人」を目指します

この30年間は新しい住宅団地開発や子育てしやすいまちの実現を目指した取組みを進め人口が伸びていました。

増加傾向にあった市の人口も落ち着きをみせ、今後は少子高齢化が進行する見込みです。「木津川市デジタル田園都市構想総合戦略」と併せて、まちづくりに取り組むことで人口減少に歯止めをかける必要があります。

これらの取組みを進めて、令和10(2028)年の将来目標人口「80,000人」を目指します。

年齢3区分別人口と高齢化率の推移（実績値と将来推計値）



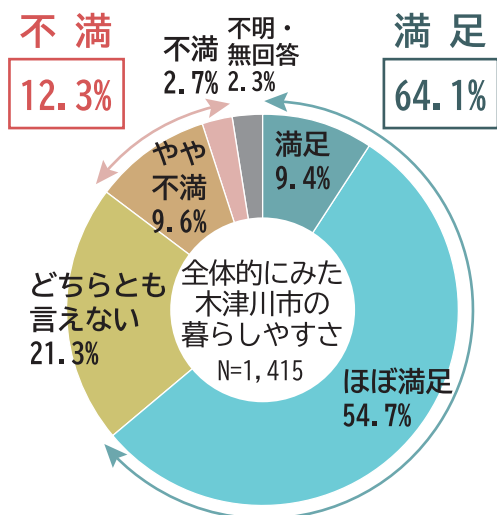
資料：実績値「国勢調査結果」（総務省統計局）、推計値は令和5年（2023年）市推計

まちづくりへの市民の意識

市民の声を聴くと、暮らしやすさに満足している割合が多く、自然やまちなみの雰囲気を好んでいますが、通勤・通学の交通の便利さや、農林業、商業、観光の振興など仕事の機会において不満を感じています。

市民が描くまち

木津川市は暮らしやすいですか？

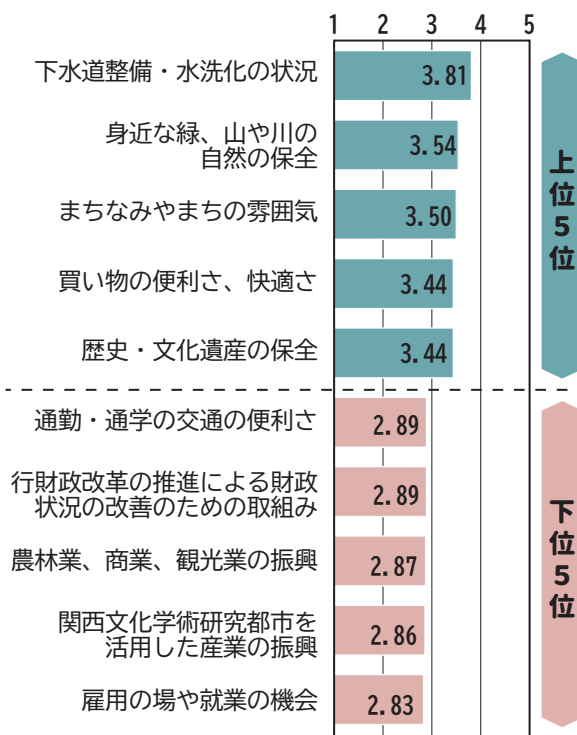


「市民アンケート調査」結果より
※ 18歳以上の市民への調査であり、令和5(2023)年度に実施

暮らしやすさについてどう思いますか？

(26項目中上位・下位5項目)

数字:「満足」=5点、「やや満足」=4点、「どちらとも言えない」=3点、「やや不満」=2点、「不満」=1点として平均したもの



中学生が描くまち



もし市長になったら…

- 木津川や森林などの自然環境を大切にするまち
- こどもやお年寄りなどを大切にする健康・福祉の充実したまち
- 安全で清潔な生活環境の整ったまち にしたい！

「中学生アンケート調査」結果より
※ 市内中学校に通学する中学生への調査であり、令和5(2023)年度に実施

今と将来をつなぐまちづくりの進め方...

木津川市の特徴と目指す将来の都市構造

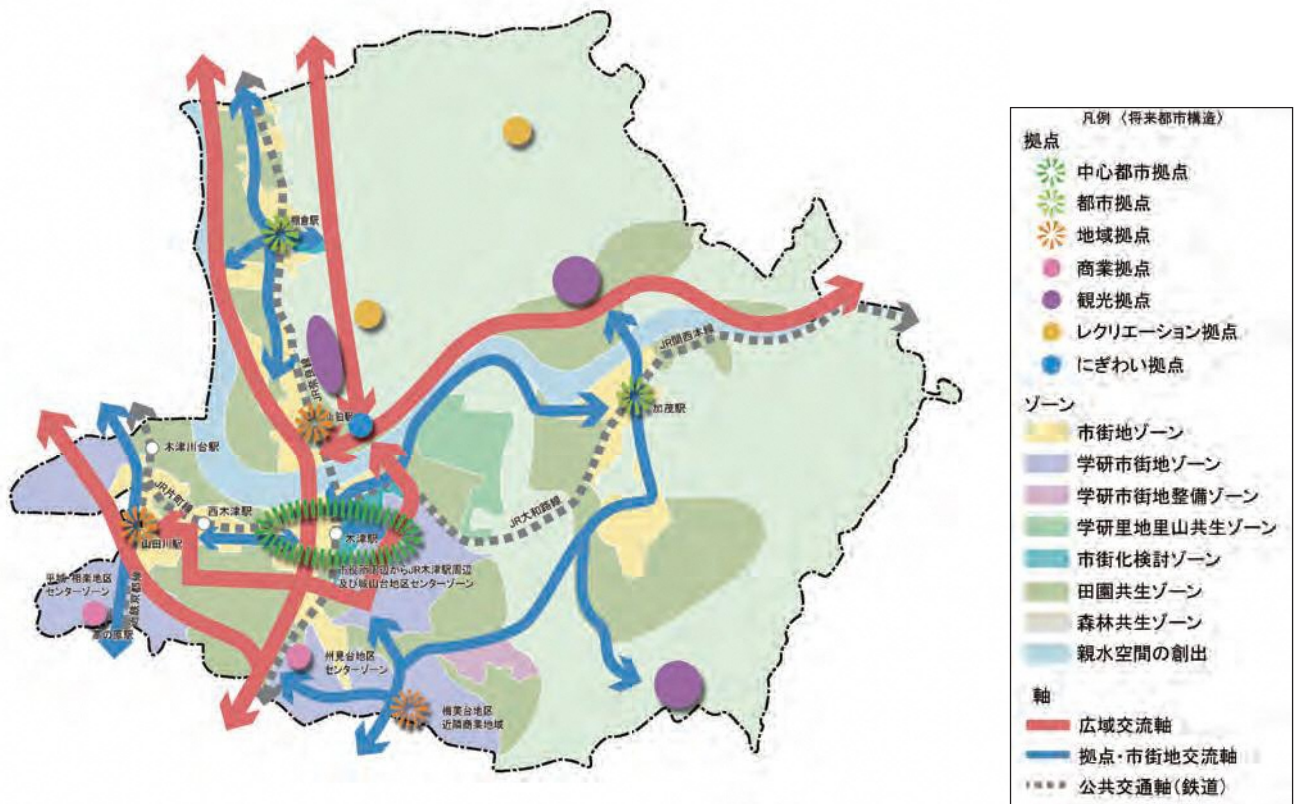
木津川市は、次のような地域の特徴を持っています。

- ^{いにしへ}古から関西文化学術研究都市*までの新旧文化が調和するまち
- 関西文化学術研究都市の中核地として、先端的な学術、産業、暮らしが展開されるまち
- 京都、大阪、奈良への交通結節点となり交流の盛んなまち
- 里地里山、木津川などの豊かな自然に恵まれた産業や文化のあるまち
- 魅力ある住環境を背景に、人口が増加し子育て世代の多いまち

今後も少子高齢化が進行するなか、持続可能な社会を実現するために、市の特徴を活かしたクラスター型*の都市構造の形成を目指します。

各地域のまちづくりの中心となる「拠点」、市内各地に広がる暮らしや農産業、自然などの「ゾーン」を道路や鉄道などの「交流軸」で結び、都市機能がたがいに連携できる都市づくりを進めます。

将来都市構造



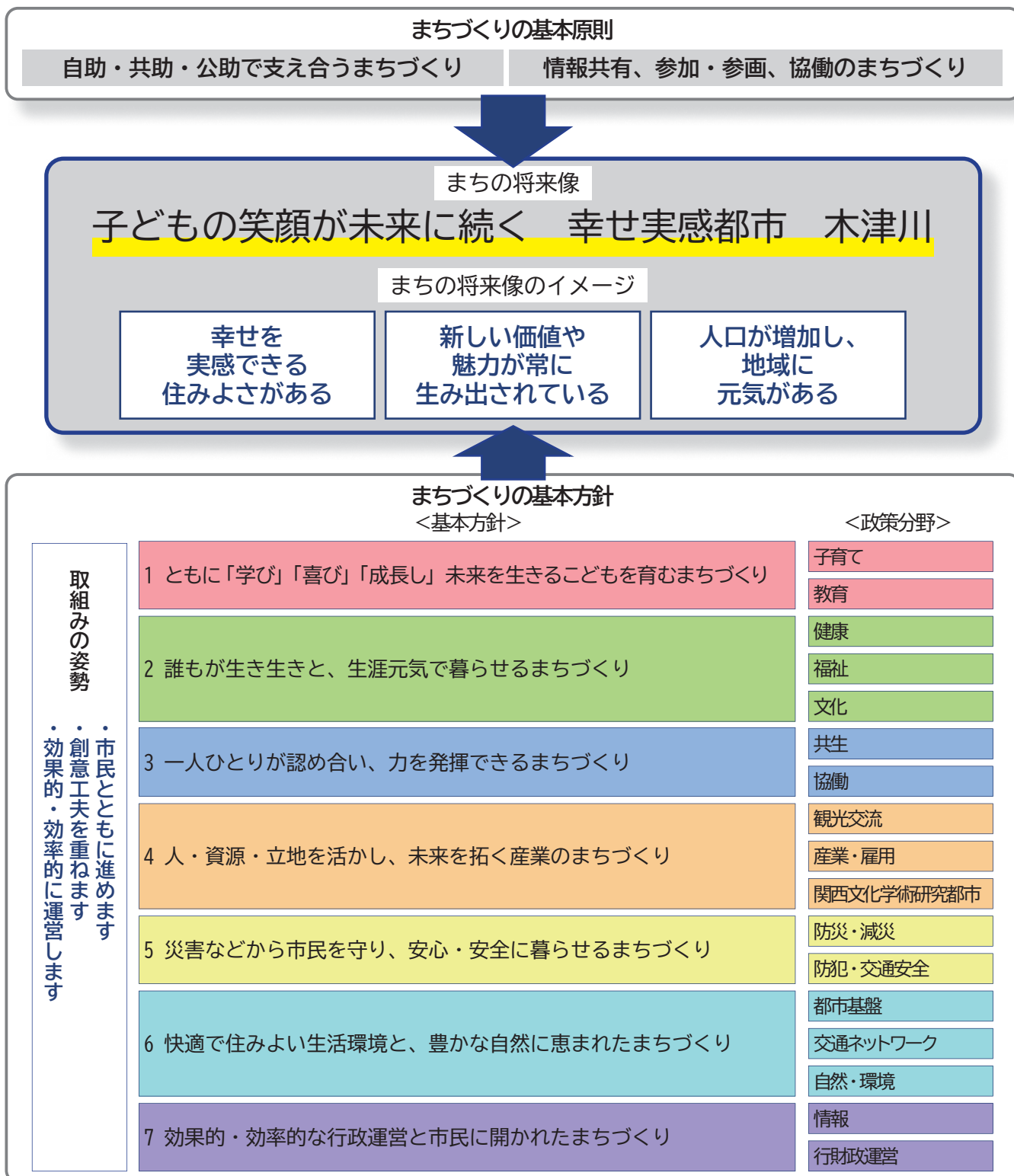
出典：「第2次木津川市都市計画マスタープラン」

*関西文化学術研究都市：京都府、大阪府、奈良県の3府県(7市1町)にまたがる京阪奈丘陵に、文化学術研究施設、文化学術研究交流施設、公共施設、公益的施設、住宅施設、その他の施設を一体的に整備を進めているサイエンスシティ。木津川市では、精華・西木津地区、平城・相楽地区、木津地区が指定されている。

*クラスター型：クラスター(cluster)は、本来は花やブドウの房の意味であり、都市計画で用いるクラスター型は、個々の拠点や地区を相互に関連させて一つの集合体としてとらえ、配置するタイプの都市づくりを意味する。

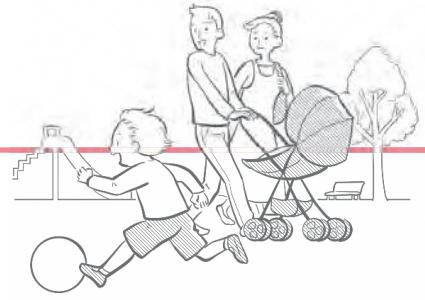
めざすまちの将来像と基本計画の体系

木津川市では、市民、行政等の各主体が連携を図ることで、「まちの将来像」の実現を目指し、市民が幸せを実感できるまちづくりを進めるため、7つの「基本方針」を設定します。



基本方針 1

ともに「学び」「喜び」「成長し」 未来を生きるこどもを育むまちづくり



「子育てするなら木津川市」といわれるまちを目指し、誰もが安心してこどもを産み育てられ、未来を生きるこどもを育むまちづくりを進めます。

政策分野 1 子育て



施策 ①子育て支援 ②母子保健 ③乳幼児期の教育・保育サービス ④こどもの人権尊重

政策分野 2 教育



施策 ①教育環境 ②学校教育 ③こどもの健全育成

基本方針 2

誰もが生き生きと、 生涯元気で暮らせるまちづくり



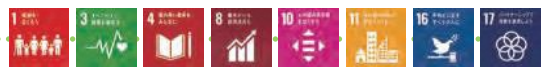
誰もが住み慣れた地域で生涯元気で自分らしく生き生きと暮らせるよう、市民の健康づくりに取り組み、地域社会のなかで知識や能力を存分に発揮できるまちを目指します。

政策分野 3 健康



施策 ①保健・医療 ②福祉医療 ③医療保険

政策分野 4 福祉



施策 ①地域福祉 ②高齢者福祉 ③障がい者福祉

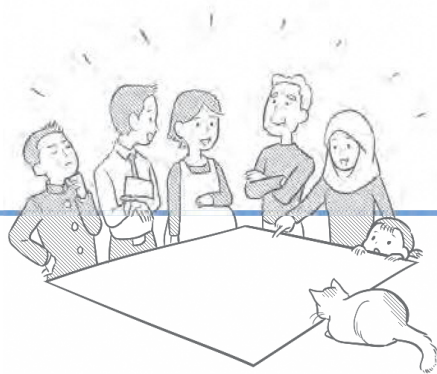
政策分野 5 文化



施策 ①生涯学習 ②スポーツ

基本方針 3

一人ひとりが認め合い、力を発揮できるまちづくり



性別や国籍・文化・価値観の違いを問わず、互いに認め合い、誰もが「一人の人間として大切にされている」ことを実感でき、主体的に力を発揮できるまちづくりを進めます。

政策分野 6 共生



施策 ①人権 ②国際交流・多文化共生 ③男女共同参画

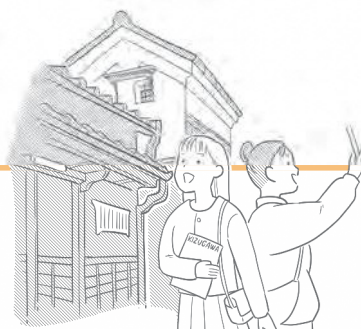
政策分野 7 協働



施策 ①市民参加・参画 ②地域コミュニティ

基本方針 4

人・資源・立地を活かし、未来を拓く産業のまちづくり



関西文化学術研究都市の先進的な科学技術や、新しい産業を生み出すことで、木津川市の活力を高め、未来を拓くまちづくりを進めます。

政策分野 8 観光交流



施策 ①観光振興 ②文化財の保全・活用

政策分野 9 産業・雇用



施策 ①農林業 ②商工業 ③雇用・労働環境

政策分野 10 関西文化学術研究都市



施策 ①関西文化学術研究都市の活用

基本方針 5

災害などから市民を守り、 安心・安全に暮らせるまちづくり



災害に強いまちの整備や、災害が発生した時に的確に行動できるような情報提供や体制づくり、地域の防犯体制を充実することで、市民の生命や財産を守るまちづくりを目指します。

政策分野 11 防災・減災



施策 ①災害対策 ②地域防災

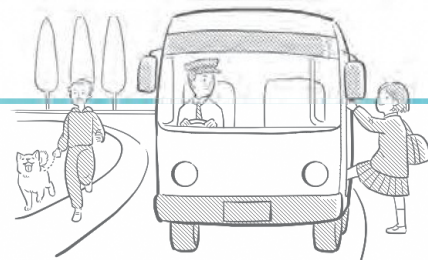
政策分野 12 防犯・交通安全



施策 ①防犯・交通安全 ②消費者保護

基本方針 6

快適で住みよい生活環境と、 豊かな自然に恵まれたまちづくり



関西学術研究都市の強みと都市に近く、アクセスしやすい立地を活かして、豊かな自然を守り、すべての世代の人が快適で住みやすい生活環境を目指します。

政策分野 13 都市基盤



施策 ①都市環境 ②住宅 ③上下水道

政策分野 14 交通ネットワーク



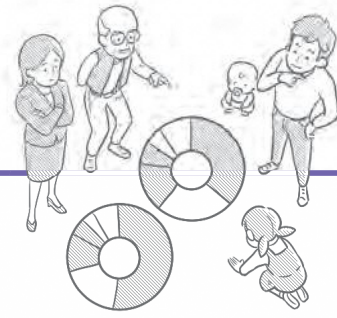
施策 ①道路 ②公共交通

政策分野 15 自然・環境



施策 ①地球環境 ②地域環境 ③循環型社会・環境教育

基本方針 7



効果的・効率的な行政運営と 市民に開かれたまちづくり



市民のニーズに合わせて限られた資金を上手に使い、財政を健全に保ちながら、持続可能なまちづくりを進めます。

政策分野 16 情報



施策 ①情報公開 ②広報 ③情報セキュリティ

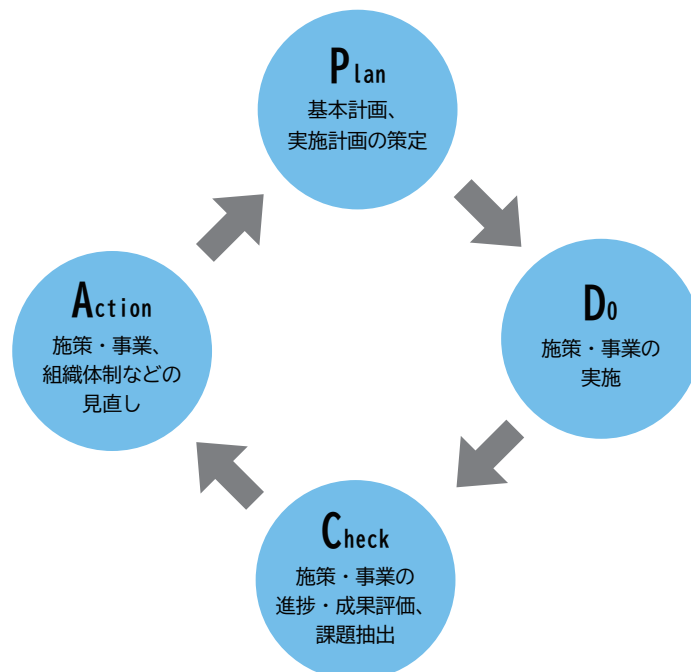
政策分野 17 行財政運営



施策 ①行政サービス ②行財政改革 ③財政基盤の確立
④財産管理 ⑤組織・人材育成 ⑥広域連携

総合計画の推進に向けて

総合計画はPDC Aサイクルに基づき推進します。PDC Aとは、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の頭文字を取ったもので、最初に計画を立てて実行し、その後、実行した結果を評価し、必要に応じて改善する、といったサイクルを繰り返すことで、効果的な施策を継続的に進めていきます。



SDGsと総合計画

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された国際社会全体の共通目標です。貧困や不平等、気候変動などの世界的な「誰一人取り残さない」社会の実現のため、令和 12 (2030) 年までに達成すべき 17 のゴール (目標) と具体的に示された 169 のターゲットから構成されています。

日本では、平成 28 (2016) 年 12 月に「SDGs 実施指針」が策定され、自治体も各計画の策定時に SDGs の要素を最大限反映することを推奨し、SDGs の達成に向けた取組みを推進するように求められています。

木津川市は、「SDGs 日本モデル」宣言賛同自治体であり、SDGs の考え方を取り入れながら、人口減少・少子高齢化がもたらす社会的課題の解決と持続可能なまちづくりを進めています。市民、事業者など多様な主体の協働・連携のもと、総合計画と SDGs の推進を図ります。

	目標 1 貧困をなくそう		目標 10 人や国の不平等をなくそう
	目標 2 飢餓をゼロに		目標 11 住み続けられるまちづくりを
	目標 3 すべての人に健康と福祉を		目標 12 つくる責任 つかう責任
	目標 4 質の高い教育をみんなに		目標 13 気候変動に具体的な対策を
	目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		目標 14 海の豊かさを守ろう
	目標 6 安全な水とトイレを世界中に		目標 15 陸の豊かさを守ろう
	目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		目標 16 平和と公正をすべての人に
	目標 8 働きがいも経済成長も		目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう
	目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう		

第 2 次木津川市総合計画後期基本計画 (概要版)

編集/木津川市企画戦略部学研企画課
〒 619-0286 京都府木津川市木津南垣外 110-9
TEL 0774-72-0501 (代表) FAX 0774-75-2701
URL <https://www.city.kizugawa.lg.jp/>